

## 臨時教育委員会協議会

平成27年2月27日（金）

出席委員

峪委員長、吉崎委員、高橋委員、中本委員、濱谷委員、渡邊教育長

### 1 開会宣言

【峪委員長】

会議の開催を宣言した。

### 2 報告事項

報告事項 川崎市立中学校生徒の死亡について

【学校教育部長】

発生場所は多摩川河川敷、川崎市川崎区港町

被害生徒は、川崎区内中学校1年生 上村 遼太さん

2月20日午前6時15分ごろ、川崎区港町の多摩川河川敷で、若い男性が草むらに倒れていることを通りがかった女性が発見、付近の男性に通報し、110番通報、着衣、所持品はなく、すでに死亡していた。

死因は首を鋭利な刃物で傷つけられたことによる出血性ショック。

本日、この事案について、神奈川県警察本部川崎署捜査本部から逮捕情報が入った。

被疑者は、川崎市川崎区在住 自称無職 18歳、川崎市川崎区在住 自称無職 17歳、川崎市川崎区在住 職業は調査中である 17歳、いずれも男性。

3名については、平成27年2月20日午前2時ごろ、川崎市川崎区港町6番1号先、多摩川河川敷において、殺意を持って刃物等により首を刺し、出血性ショックにより殺害したものである。

該当校の様子は、スクールカウンセラー等を配置する中で、当初は子どもたちも受け止められず、特に1年生の女子生徒の中には涙ぐむものもいたと聞いているが、次第に生活のほうは落ち着いてきている。

しかし子どもたちには、同じ学校の友達を亡くしたということで、表面には出ていないが非常にショックがあるものと考えている。

学校では毎日、生徒の様子を丁寧に確認し、保護者の方々とも連絡を取り、今後、子どもたちの心の傷を相談等で対応しなければならないと考えている。

**【峪委員長】**

何か事前に対策が打てなかったのか、また今後二度とこのようなことが起きないように、検証をしなければならないと思っている。そのための体制を整えていくことが、今後大事だと思っている。

**【教育長】**

大きく2つの面から今後考えなければいけないと考えている。

1つは、今回尊い命が失われたこの痛ましい事件。

事件がなぜ起こってしまったのか、また私どもがそれを防ぐことができなかったのか等、まず今回のこの事件の内容について、検証する。

もう1つは、それを踏まえ、市内の全ての学校において、同じように取組が行われているか、未然防止にどう取り組んでいくのか、検証する。

今現在、全ての学校に対して、特に長期欠席の児童生徒に対して、これまで以上に丁寧に状況の把握に努め、適切な指導を行うことを求めている。

今回、検証の視点として、生徒理解がどのくらいどういう形で行われていたのか、日頃の教育相談がどのように行われ、子どもたちが抱えた悩みなどが相談できる体制があったのか検証していかなければいけないと思う。

**【濱谷委員】**

該当校だけではなく他の学校にもフォローできる体制も大事だと思う。

事実をきちっと時系列で把握しないと、1つのことが前後するだけで物事が変わったり、見方が変わったりしてしまう。

**【教育長】**

今の発言は、検証の視点として、保護者の方、地域の方、あるいは他校等、子どもの情報共有という、その連携についての視点ということでよいか。

**【吉崎委員】**

検証の場合の視点のひとつとして重要なのは、被害者は、1月から学校に来られなくなった、その前の段階、1年になってから12月までの段階がどういう状況で、1月から長期欠席という学校に来られなくなったのかという変化をスパンを長く取って検証していただきたい。

今回は地域、家庭とのつながりが非常に強い中で起こっている問題であり、ここに学校がどこまで関われるのかという、大きな問題が提示されていると思う。

学校に来られない状況で、被害者が出すサインは誰が捉えられるものなのか、特にネット社会に入ってきたときに、学校がそれを捉えにくい状況が非常にある、そういう状況の中

でも危機的状況のサインをどこがどうやって捉えられるのか、その検証も重要な問題である。

#### 【高橋委員】

学校視察する中で、一昔前よりは非常に家庭も地域との関わりが希薄になっており、多様な問題が学校に集中していると感じている。

社会環境も変わっているということも含めて、細かい検証、現状把握が必要だと思う。

保護者として我が子のために何ができるのかということをもそれぞれ保護者がこれをきっかけに、私を含め考えなくてはいけない。

自分だけでは対応ができないとしたら、誰に相談をしたらいいのか、学校なのか、行政なのか、近所の人なのか、友達なのか、そういったところを具体的に考えなければいけない。

#### 【教育長】

今、学校と保護者の連携協力が大変大事だという声をいただき、正にその通りだと思う。担任の先生だけが抱えていて、学校内で組織的にその難しい状況の理解がなされていなかったとしたら、それはまた課題である。

組織的、チームとして学校が機能するような状況であったのかどうか見ていかないといけないと思う。

教育委員会事務局としても、学校に十分な支援ができていたのか、対策の取り方についての指導、助言、スクールソーシャルワーカーの派遣など可能な限りの支援をしなければいけなかったという反省も含めてしっかりと検証していきたい。

家庭だけでは難しい状況があるという話がありましたので、これは教育だけの分野で抱えきれないような問題も事例によってある。

学校、あるいは教育委員会だけが相談相手ではなく、他の関係機関、警察も含めてしっかりと検証する。

#### 【中本委員】

プライバシーとか様々な制約の中で、学校が地域や家庭の中にどこまで入っていけるのか、改めて様々な方面から検証していただきたい。

関係部局が連携し、多方面から子どもたちを見守る仕組みを検証してもらいたい。

緊急避難を必要とするような子どもたちを見つけられる仕組みがあるのか、ちゃんと機能しているのかという検証をしていただきたい。

#### 【濱谷委員】

スクールソーシャルワーカーとかカウンセラーとか、要するに職員を増やしたらそれでいいのかというのではなく、保護者の方も地域の方もきっと危機感を感じており、全市的に

今後の検証の中では、家庭や地域も一体になって子どもを見守るという形になっていくとよい。

**【吉崎委員】**

誰に SOS を言ったらいいかという時に、友達とかには言いやすいが親とか先生とか、大人にはいいにくい状況があったんじゃないか、そのときに SOS を聞いた仲間や級友が、どこかにそれを伝えてくれる仕組みができていればいい。

学校以外でも何か伝えられる場所、危機的な状況のときにどこかに伝える、すぐれるところ、それを日頃から学校も含めて伝えておく必要がある。

**【教育長】**

本市の場合、人権オンブズパーソンという仕組みがある。

子どもたち一人ひとりに電話番号を書いたカードなどを配付しているが、どこまで伝わっていたのかということは、今後丁寧に検証していく。

**【高橋委員】**

近所の人の声なども具体的に検証の中で入れて考えていただきたい。

**【教育長】**

改めて学校の中で、生命や人権に対する教育とか、子どもの心にしっかり届くような形でなされていたのか、今後再発防止の取組として、生徒の学校における状況等も見ていく。

**【峪教育長】**

たくさんのご意見をいただきました。教育委員会として早急に検証体制を確立し、その検証を通して対策を考え、それを市内全ての学校で生かされるように仕組みを作っていく。

関係機関と連携を図って再発防止に取り組んでいく。

ということでよいか。

**【各委員】**

<了承>

### **3 閉会宣言**

**【峪委員長】**

閉会を宣言した。